セトニトリル及びアンモニア水の混液（９：１）10mlを注入し、溶出液を採り、アセトニトリル及びアンモニア水の混液（９：１）を加えて正確に10mlとしたものを試験溶液とする。

５．操作法

ａ　検量線の作成

マラカイトグリーンシュウ酸塩標準品及びロイコマラカイトグリーン標準品をそれぞれアセトンに溶かして500mg／１（マラカイトグリーンシュウ酸塩標準品にあってはマラカイトグリーンとしての濃度）とし、標準原液とする。各標準原液を適宜混合してアセトニトリル及びアンモニア水の混液（９：１）で希釈した溶液を数点調製し、それぞれを液体クロマトグラフ・タンデム型質量分析計に注入し、ピーク高法又はピーク面積法により検量線を作成する。なお、４．試験溶液の調製に従って試験溶液を調製した場合には、試料中0.002mg／kgに相当する試験溶液中濃度は0.00001mg／１である。

ｂ　定量試験

試験溶液を液体クロマトグラフ・タンデム質量分析計に注入し、ａ　検量線の作成によりマラカイトグリーン及びロイコマラカイトグリーンの定量を行う。

ｃ　確認試験

液体クロマトグラフ・タンデム質量分析計により確認する。

ｄ　測定条件

カラム：オクタデシルシリル化シリカゲル　内径2.1mm、長さ150mm、粒子径５μm

カラム温度：40℃に保持する。

移動相：アセトニトリル及び50mmol／１ギ酸アンモニウム緩衝液（pH3.5）の混液（３：７）から（９：１）までの濃度勾配を15分間で行い、（９：１）で10分間保持する。

イオン化モード：エレクトロスプレーイオン化法　ポジティブモード

主なイオン（m／z）：

マラカイトグリーン　プリカーサーイオン329、プロダクトイオン313、165

ロイコマラカイトグリーン　プリカーサーイオン331、プロダクトイオン316、239

注入量：10μl

保持時間の目安：

マラカイトグリーン　８分

ロイコマラカイトグリーン　16分

⑱　（略）

６～12　（略）

Ｂ・Ｃ　（略）

Ｄ　各条

○　清涼飲料水

１　清涼飲料水の成分規格

⑴　（略）

５．操作法

ａ　定性試験

次の操作条件で試験を行う。試験結果は標準品と一致しなければならない。

操作条件

カラム充てん剤　オクタデシルシリル化シリカゲル（粒径２～５μm）を用いる。

カラム管　内径2.0～6.0mm，長さ100～250mmのステンレス管を用いる。

カラム温度　40℃

移動相　アセトニトリル及び0.01mol／１ギ酸アンモニウムの混液（１：９）から（１：０）までの濃度勾配を20分間で行い，（１：０）で10分間保持する。マラカイトグリーンが約10分で流出する流速に調整する。

ｂ　定量試験

ａ　定性試験と同様の操作条件で得られた試験結果に基づき，ピーク高法又はピーク面積法により定量を行う。

⑱　（略）

６～12　（略）

Ｂ・Ｃ　（略）

Ｄ　各条

○　清涼飲料水

１　清涼飲料水の成分規格

⑴　（略）